

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年6月27日

【評価実施概要】

事業所番号	3292200023		
法人名	社会福祉法人 愛宕会		
事業所名	グループホーム さくら荘		
所在地	島根県隠岐郡隠岐の島町郡582-1番地 (電話) 08512-5-9111		
評価機関名	NPOしまね介護ネット		
所在地	島根県松江市白潟本町43番地		
訪問調査日	平成20年6月23日	評価確定日	平成20年7月16日

【情報提供票より】 (20年5月20日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 18 年 8 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	8 人	常勤5人, 非常勤3人, 常勤換算4, 5人	

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り	
	1階建ての	1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	21,000 円	その他の経費(月額)	9,000 円
敷金	有 (円)	○無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり		850 円

(4) 利用者の概要 (5 月 20 日現在)

利用者人数	9名	男性	0名	女性	9名
要介護1	3名	要介護2	5名		
要介護3	1名	要介護4	0名		
要介護5	0名	要支援2	0名		
年齢	平均 89歳	最低	80歳	最高	94歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	広域連合隠岐病院
---------	----------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

診療所や法人の事業所、お店、住宅などが立ち並び緑豊かな環境に恵まれたホームである。利用者の自己決定を一番に考え、外出や買い物、催し物への参加など、希望に沿った支援をしている。今年度から積極的に食事づくりに取り組み、一緒に行動する中で会話のなかった利用者やとりがでできるようになるなど、着実にケアの質の向上が見られる。元保育所の名残の広い庭はペタンクコートとして地域の人に提供し、周辺の草刈りをしてもらうなど交流が行われている。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況 (関連項目: 外部4)
	「ホーム独自の理念」「たよりの発行」「生活支援の柱としての食事づくり」は話し合いが行われ改善に向けて取り組みが行われている。「入浴支援」「備蓄」などは引き続き課題となっている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況 (関連項目: 外部4)
	管理者が職員会で話し職員の意見を聞いて評価を行った。職員は評価の意義を理解し、業務の検討をするなど改善への取り組みを行っている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み (関連項目: 外部4, 5, 6)
	利用者の状況、活動内容、外部評価などを報告し、活発に意見交換をしている。ドライブの行き先や畑作りの提案、要望などが出され、意見は運営に活かされている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映 (関連項目: 外部7, 8)
	家族の訪問時や運営推進会議で意見や要望を聞いている。家族は外出の希望や気づいたことを積極的に話し、意見は運営に反映されている。利用者が家族に将来の不安を話され、それについて家族が相談することもある。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携 (関連項目: 外部3)
	地域の祭りや文化祭に積極的に出かけたり、ホームの庭をペタンクの競技場に提供している。近所の人から野菜や花の差し入れがあるようになり、今後は納涼祭に地域の人を呼びさらに交流する計画を立てている。

2. 評価結果（詳細）

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	前回の評価後、理念の見直しを行い、ホーム独自の理念をわかりやすくつくりあげた。	○	さらに、地域密着型としての内容が盛り込まれることを望みたい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	カンファレンスや職員会等で理念に沿ったケアを行うように話し合い実践している。管理者は、職員に専門職としての意識や気づきを大切にして欲しいと話している。	○	施設利用上の注意義務等について記載のある文書に、一部理念にそぐわない表現があるので見直しが望まれる。
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	祭りや文化祭など地区行事に参加し、文化祭では生け花などを展示している。ホームの庭で老人会がペタンク競技をしたり、近所の人から野菜や花の差し入れもある。	○	ホームの納涼祭に地区の人を呼ぶ計画があるので、積極的な交流を期待したい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者が職員会で話し職員の意見を聞いて評価を行った。改善課題について全員で話し合い、無理のないところから取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者の状況、活動、食事づくり、外部評価などを報告し、積極的に意見交換をしている。ボランティアやドライブの行き先など情報提供してもらっている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村などが開催する研修会に積極的に参加し担当者との交流に努めている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の訪問時や電話で報告している。たより第1号を発行したが継続されていず、管理者は年2回は発行したいと考えている。	○	たよりの定期的な発行を期待したい。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	訪問時や運営推進会議で意見を聞いている。家族はできるだけ外出させて欲しいと考えていて、ホームも積極的に取り組んでいる。家族が将来のことを相談されることもある。	○	家族同士の交流の場も検討し、家族と一緒に利用者の生活を支える仕組みを構築していただきたい。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動がある場合には、先輩職員と一緒に動き利用者にも与える影響を少なくしている。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修の情報を早めに伝え、積極的に参加している。職員会で研修内容の伝達を行い復習をしている。法人の研修会も行われ夜勤者も参加している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は電話で情報交換を行っているが、職員は法人以外の事業所との交流は行っていない。地域の同業者間でのネットワークづくりが検討されている。	○	他の同業者と協力しながらネットワークづくりを行い、互いに交流する中でさらにサービスの質の向上を目指していただきたい。
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	問い合わせや見学に応じ納得しての利用となっている。居室から徐々にホールで過ごす時間を増やしたり、食事づくりや趣味活動をとおして馴染んでもらうよう配慮している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	のり巻きや貝飯など料理の仕方、野菜の作り方、女性としての身だしなみなどを教わっている。食事づくりをする中でお互いに「ありがとう」と言い合う関係ができてきた。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	言葉や行動から思いを探り対応している。家族との出会いの場で、利用者の家族への深い思いに触れたことがあり、その人をより理解し生活を支えるケアができるようになった。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	計画作成担当者が家族や職員の声を聞き計画を立てている。利用者の状態によっては、福祉用具担当者など関係者の意見を聞き立案している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月ケース会議を開き見直しを行っている。利用者に変化があった時は随時見直し現状に即したケアの統一を図っている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制加算をとり利用者の健康管理を行っている。通院や外出、孫の結婚式への出席など、希望に応じ柔軟に対応している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的を受診し服薬や生活上の相談をしている。近くの診療所は午前中の診療なので救急時や土、日などは医師の連携の下、他の協力医療機関を受診している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	看取りについての明確な指針があり、利用者、家族の思いを一番に考え、関係者と話し合いを行いながら支援していこうと考えている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1. その人らしい暮らしの支援 (1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報取り扱いをしていない	利用者の尊厳を傷つけないように一人ひとりの考え方、感じ方を尊重した対応を心がけている。人に知られたくないことは悟られないよう配慮している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	買い物やドライブに出かけたり、朝ゆっくりしたい人には居室で過ごしてもらおうなど、利用者の希望や自己決定を大切にした支援をしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	始めは法人の事業所から食事を購入していたが、徐々に食事づくりの回数を増やし、利用者の力を活かしている。「食事がおいしいですよ」と話す人もいて和やかな食事場面だった。	○	今年度の課題の一つに食事づくりがあげられているので、生き生きとした楽しい取り組みになることを期待したい。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的には週2回の入浴になっている。自立している人はいつでも自由に入浴できるが、最近希望する人がいなくなってきた。	○	曜日や回数に関係なく、利用者の希望を引き出しながら希望に沿った個別の支援ができるような体制づくりを望みたい。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	野菜作り、食事づくり、生け花など、利用者の力を活かせる場面がある。法人の事業所と日常的に交流したり、友人に会いに行くなど、楽しみごとの支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩や買い物、ドライブなど、希望を聞きながら外出している。外出の機会の少ない人にも声をかけ出かけている。利用者の希望に迅速に対応したいと考えている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は鍵をかけていない。ホーム周辺には木々や広い庭があり安心して外出できる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の指導を受けて総合避難訓練、救急救命講習、防火機器訓練を行い、毎月独自に避難訓練、救命講習などを実施している。各居室に火災報知器がある。	○	水や食料品などの備蓄や、地域住民との合同訓練はまだ行われていないので、引き続き課題としていただきたい。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	季節毎に食事内容を工夫し希望を聞きながら献立を立てている。食事の残量を把握し利用者の状態把握を行っている。水分量にも留意しホールや居室にお茶を用意している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	優しい雰囲気を出すためにコンクリートの壁に写真を飾ったり、利用者の状態を考慮してテーブルを三つに分けるなど工夫している。掘りごたつなど利用者が自由に過ごせる場所がある。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	庭で摘んだ花を飾ったり、柱時計、ラジカセ、お茶道具、のれんなど馴染みのものが持ち込まれている。配置にも工夫が見られ利用者の個性が感じられる。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。